

令和6年度第5回富山県総合教育会議 議事録

1 日 時 令和7年1月9日（木）10:30～11:40

2 場 所 県庁4階大会議室

3 出席者 富山県知事 新田 八朗
富山県教育委員会
教育長 廣島 伸一
委 員 坪池 宏
委 員 大西 ゆかり
委 員 黒田 卓
委 員 牧田 和樹
委 員 松岡 理

4 事務局出席者 経営管理部長 南里 明日香
理事・経営管理部次長 坂林 根則
理事・教育次長 水落 仁
教育次長・教育みらい室長 中崎 健志
教育次長 小杉 健
参事・教育企画課長 板倉 由美子
学術振興課長 水上 優
県立高校改革推進課長 丸田 祐一
教育みらい室課長 嶋谷 克司
他関係課職員数名

5 議 事

(1) 県立高校における教育振興について

- ・ 「新時代とやまハイスクール構想（仮称）」基本方針（たたき台）
- ・ 基本方針策定までの流れ（案）
- ・ （報告）将来の県立高校に関するアンケート調査結果及び意見交換会

6 会議の要旨

司会が開会を宣し、新田知事の挨拶後、富山県総合教育会議運営要領第3条並びに知事の指名に基づき、以後の議事については南里経営管理部長が進行した。

(1) 県立高校における教育振興について

- ・ 「新時代とやまハイスクール構想（仮称）」基本方針（たたき台）

(南里経営管理部長)

- ・事務局から資料1のI、II（7～12ページ）について説明する。

丸田県立高校改革推進課長が、資料1「『新時代とやまハイスクール構想（仮称）』基本方針（たたき台）」の「I. 令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿（案）」、「II.『目指す姿』から逆算的に考える『配置の姿』（案）」について説明した。

(南里経営管理部長)

- ・委員の皆様からご意見いただきたい。

○委員からの意見

(坪池委員)

- ・まず、7ページから9ページにかけてのところ、国や様々な審議会で議論されていることを踏まえ、新時代に求められる学校の姿がよくまとめられていると思う。富山県の県立高校に限らず、今後の公立高校のあり方を示す上で全国のモデルになると考えてもいいと思う。そういう意味では、全国に積極的に情報発信してはどうかと思う。
- ・ただ、新時代を見据える前に、本県の公立高校のこれまでの実績を評価する必要がある。教育県富山と他県から言われているのは、おそらく、小中の学力調査で常に上位にある、高校の進学実績も全国上位にある。それから就職率も全国上位にある。こういう県はあまりないと思う。見えやすい学力観という意味では、全国のトップを走ってきた先進県といえると思う。
- ・新しい時代に求められる学校を作っていく上で、どのように、どの程度舵を切っていくのかは課題。こういう言い方が、ぴったりくるかどうかわからないが、PISAの国際調査で数学的リテラシー5位である日本が34位の先進的なアメリカの教育を取り入れているが、そのあたりの難しさがあるのではないかと思っている。
- ・8ページで、生徒に多様な選択肢を提供するとあるが、少子化が進行する中で実現は難しいと思う。できないという意味ではないが、困難性がある。少子化というキーワードを使って、限界があることを示す必要があるのではないか。
- ・9ページの特に①から⑥、また中高一貫校、バカロレアなどについては、大都市圏では生徒募集のアイテムとして使っている場合が多い。大都市周辺の先進校は、ある程度差し引いて参考にする必要がある。地方の公立高校の先進的な取り組みを重視して、参考にしていく必要がある。
- ・例えば、地方のスーパーイエンスハイスクールや理数科は、多くの県で生徒募集に非常に苦慮している。これは説明が必要だが、教育課程を充実していくと生徒募集が難しくなることがある。富山中部高校のスーパーイエンスハイスクールは、全国で最高評価を受けている。学習内容、或いは教育課程が充実して、なおかつ生徒募集がうまくいっているのは非常にまれなケースだ。新しいものを取り入れるときには、うまくマッチしていく必要がある。両立を図っていくようなことが必要。

- ・12 ページ、中長期展望に立ったバックキャストという考え方は、新しい発想で非常に素晴らしい。最終的な令和 20 年度の姿を、きちんとした形ではなくても、ある程度わかるように公表、周知することを早めに、説明していただければ、移行準備校にとっては対応しやすいのではないか。

(牧田委員)

- ・8 ページの基本目標について。今回、新時代がキーワードになっているようなので、基本目標の「時代に適応し」というところは、「新時代に適応し」という方がしっくりくるのではないか。

(黒田委員)

- ・これまでの議論も踏まえて、非常にうまくまとめていただいている。
- ・坪池委員の話にもあったが、どのように提案するか。具体的にどことどこが統合するというようなところを示してあげないと動けないのではないかというお話をと思うが、そうではなく、今回、すべての県立高校が移行準備校になることを強調するべき。
- ・もちろん、それぞれの学校がこれまで培ってきた伝統、校風、文化みたいなものをすべてが残せないにしても、新しいところにどう引き継いでいくか、複数の学校で良いものをどういうふうに、さらによいものに作り上げていくかを早めに考えていただく必要はあると思う。
- ・そのためには、どことどこを統合するとか、近いから統合という話ではなく、内容的なところも考えながら、全県的に見たときに新しくここで作る高校にこんな機能が必要であるとか、そのためにはこういうことを教えられる先生が必要だとか、こういう学科が必要とか、これはいらないというところもあるかもしれないが、どこかに持って行くほうがいいのではないかとか、地域との繋がりを考えるとどういう学科が必要なのかなど、その学校でないとわからないこともあると思うので、上から決められてことここが統合しなさいという話ではないところを強調していただきたい。

- 基本方針策定までの流れ（案）

(南里経営管理部長)

- ・事務局から資料 1 の III (13~17 ページ) について説明する。

丸田県立高校改革推進課長が、資料 1 「『新時代とやまハイスクール構想（仮称）』基本方針（たたき台）」の「III. 『目指す姿』の実現に向けた検討方針（案）」について説明した。

(南里経営管理部長)

- ・委員の皆様からご意見いただきたい。

○委員からの意見

(大西委員)

- ・ 13、14 ページの検討方針（案）の進め方として、令和 7 年度にまず取りかかる検討事項として、大規模校の設置方針、各期に開設する新時代ハイスクールの方向性などが書いてある。
- ・ 令和 20 年度までに実現を目指す姿についてバックキャストで示されているのは、どうしても学校の規模や学校数にすごくスポットが当たっており、大規模校はどんな学校か、中規模校、小規模校がどんな学校を目指していくのかは、今のところはまだイメージができていない。
- ・ 令和 7 年度に大規模校の設置方針を決めて、大規模校のイメージができるから、中規模と小規模が東と西でどんなふうに配置するというイメージができ上がっていきと思うが、完全なものではなくても、令和 20 年に 20 校というのはどんな形で東西に配置されるのか、目で見える全体のイメージからバックキャストしていくのも必要なのではないか。
- ・ 目指すべき姿について、第 1 期、第 2 期、第 3 期と再編して、再編統合の検討がされていくが、その都度検証し、検証によって、次期に向けての補正や調整ももちろん生まれていくだろう。結果、令和 20 年の目指すべき姿も少し変わってくるかもしれないが、まずはバックキャストをするためには、形をお示しいただけたら良い。示せるようなことを来年度お話されたら良いと思う。
- ・ 前段の 8 つの学校の区分に関わるが、今まで県立高校では、普通科、職業科、総合学科で概ね募集の割合などもあったが、職業科の生徒さんも大学に進学する方々も多くなっており、もしかしたら、今まで職業科を目指すようなカテゴリーに入っている生徒さんは、普通科の例えれば未来創造を目指すことで、このあたりが膨らんでくることもあると思う。

(松岡委員)

- ・ 人口が減少していく新しい社会の中で、今のことともたちにどのような高校教育を提供できるかというテーマで話が進んでいる。ただ人口減少することは、生徒も少なくなるわけだが学校の先生も少なくなることであり、先ほど坪池委員のお話にもあったように、こんなに魅力的な新しい県立高校をプランしている、ぜひ富山県で教員として頑張って欲しい、そういうエントリーにも繋がるとよいと思う。

(牧田委員)

- ・ この基本方針（案）が固まった段階で、それをもとにどう具体化していくかというフェーズに入るときの重要な会議が新時代とやまハイスクール構想検討会議（仮称）になるのだろうと思う。注意をしなければいけないポイントが 2 つある。
- ・ 1 つは、この基本方針は 15 年のすごく長いスパンの構想を考えている。これを具現化していくときに、今ここには第 1 期について検討すると書かれているが、2 期、3 期がリンクageしていくかどうかはすごく大きな問題だと思う。とはいっても、同じメンバーで 15 年できないので、その連続性、繋がりをどう担保していくかは大

きな問題。会議名称には高校再編という言葉が出ていないが、今まで、高校再編の会議は比較的単発的に行われてきたので、これまでに設置された会議とは全然違う形にすべきだろう。

- ・品川委員長のときの会議を受けてこの総合教育会議で議論している立て付けはいいとは思うが、ただ、もっと早い段階で、この総合教育会議でその議論を共有できれば、こちらも意見をいろいろ申し上げて、一緒に進捗をとらえながらやっていく方がスピード感的にはいいと思う。
- ・先ほど坪池委員もおっしゃったが、スピードが求められる。逐次、時代に合わせて変えなくてはいけないことがかなり出てくると思っているので、立て付けも大事かもしれないが、もう少し、実効性のある新時代とやまハイスクール構想検討会議をぜひ考えていただきたい。
- ・もう1つの重要ポイントは、17ページの「5. 活力ある学校・組織づくり」。私が本当に望むところ。ハードばかり考えても駄目で、ハードに応じたソフトやシステムをどう変えるかというのが、教育をこれから1歩進めていくための大きなポイントだと思っている。そういう意味では、(1)と(2)に書いてあるが、人材関係の話や教員の働き方改革も含めて、こういった形で議論していくことは非常に有効だと思うので、これをできれば厚くしていただきたい。
- ・くどいようだが、入れ物だけ整備してもダメなので、中をどう運用するか、どういった学校にしていくかは、その中で働く先生、例えば、校長を民間人登用するなどいろいろな取り組みも含めてお願ひしたい。新時代とやまハイスクール構想検討会議（仮称）では、こういうソフトも検討するのか。

（丸田県立高校改革推進課長）

- ・14ページの新時代とやまハイスクール構想検討会議（仮称）では、(2)に示したことについては、まずは検討が必要であると考えている。その中でも、先ほど大西委員からもあったが、大規模校の方針をどうするのかも踏まえながら、将来の絵をどう描いていくのかも話し合うことになるのではないか。②番にある各期、1期、2期、3期にどういった方向性とするべきかについても、しっかり検討が必要であると思っている。
- ・今ほどのソフト的なところの検討をどういう形で、どういうタイミングで組み入れていくかについては、今後、しっかり考えて参りたい。

（黒田委員）

- ・牧田委員、松岡委員のお話とも関連するが、教員をどう確保するかは非常に重要。「2 学科・コースの改編等」で教育内容を考える上でも、誰が教えるのかは絶対に関わってくる。
- ・私の大学も改組を何回もやってきており、今いる既存の人でしかつくれないところもあったりするが、今回の構想の場合は、全部ではなくても、新しい何かを作りたいという場合に、どういう人を集めるかまで含めて考えるべきではないか。
- ・民間人校長なども含めて、採用計画で採用試験等も検討する必要がある。この辺

は改革と直接リンクしているところでもあり、別立てで検討するわけにはなかなかいかない。その辺りも含めて、より良い新しい学校ができるようにご検討いただきたい。

(坪池委員)

- ・先ほど、できるだけ早く令和 20 年度の姿を見せてもらえばいいという話はしたが、移行準備校が今までやってきたノウハウをどの学校で継承していくのか、実現していくのか、発展させていくのかというときには、将来的な姿がないとなかなかわからないのではないか。
- ・13 ページ令和 7 年度の検討項目①②は、当然、令和 20 年度の姿を議論するものと私は考えているがそれでよいか。検討①②についてある程度決まれば、令和 10 年以降は検討③④が中心になっていくものと考える。当然①②で決まったことが、そのあと時点修正されないという意味ではもちろんないが、ここでしっかりと議論して、そこで進行していくと理解したがどうか。

(丸田県立高校改革推進課長)

- ・14 ページ (2)、大規模校は第 3 期での開設を目指すことで、設備的なものも、時間も要するため、まず検討する必要がある。令和 20 年度の姿、どういった大規模校が必要かを検討する必要があると思っている。
- ・その上で各期に②番で各地にどういった新時代ハイスクールの方向性とするのかも合わせて検討していく意味では、令和 20 年度も含む、1 期、2 期、3 期のどういう順番で取り組んでいくかを議論する必要があるものと考えている。

(坪池委員)

- ・各時期の途中の令和 10 年、令和 15 年はわかった。その前には令和 20 年度にどういう姿になるかというのがないとその次の段階というのは出てこないので、令和 7 年度には、かなり詰めて令和 20 年度の姿を議論することによろしいか。

(丸田県立高校改革推進課長)

- ・大規模校をまずどうするか。これも令和 20 年度どういう教育が必要かという観点から、令和 20 年度も描きながら来年度検討することになる。

(新田知事)

- ・今の辺りはとても難しいことだと思う。今の時点での我々の英知を集めて、令和 20 年度への方向性を示している。それに向けて、第 1 期、第 2 期、第 3 期、こういう歩みで進めていこうと言っている。
- ・坪池委員が心配される、第 1 期の段階で具体的な新しい形、第一歩目が出るわけだが、その段階で我々が目指す最終形、令和 20 年の時点の形をどこまでの解像度で表すべきなのか、表すことができるのか。今の我々の英知を集めて、できるだけのことはやることしか言えないと思う。これをやったから後に続く人た

ちに絶対これを守つていけというのは、私はちょっと、おこがましい話じゃないかと思う。5年、6年、7年経てば、我々の顔ぶれも変わり、その時点でよりよい英知が集まるのかもしれない。

- ・我々はベストを尽くしてここまで描いたと言うことは、後に続く人たちの評価にも堪えるようなできるベストは尽くしていきたい。

- (報告) 将来の県立高校に関するアンケート調査結果及び意見交換会

(南里経営管理部長)

- ・事務局から資料2及び資料3について説明する。

丸田県立高校改革推進課長が、資料2「基本方針策定までの流れ（案）」及び資料3「将来の県立高校に関するアンケート調査結果」について説明した。

○委員からの意見

(南里経営管理部長)

- ・委員の皆様からご意見いただきたい。

(牧田委員)

- ・21ページ「将来必要と思う県立学校」で、小規模、中規模、大規模な学校のどれがいいかという話になったときに、高校生本人が経験していないことは、わかつていないと思う。
- ・設問の①から⑯までに解説をつけたアンケートなのか、それとも項目だけしか聞いてないのかをまず伺いたい。また、意見交換会では、それぞれの学校の意見をまとめて発表いただいたという話だったが、それは誰がまとめたのか。高校生たちが自主的に「みんな集まろうよ」といって「こんなことがあるのだけどどう」というふうにやっているのだろうか。恐らく、アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）が、このアンケートや意見交換に私はかかっているような気がしている。アンコンシャス・バイアスがかかっていることを踏まえて、こういうアンケートや意見交換の結果を見なければいけないのだが、アンコンシャス・バイアスがかからない取り組みを事前にされたのかどうかを伺いたい。

(丸田県立高校改革推進課長)

- ・アンケートに当たって、（令和6年）11月20日の総合教育会議でご意見、ご議論をいただいた令和20年度の目指す姿（案）を高校生たちにもご覧いただいた上で、アンケートに臨んでいただいた。
- ・高校2年生全員に対して、19ページの右下の画像のチラシを配布し、webでのアンケートを実施。QRコードより11月20日総合教育会議資料をまずは確認してもらい、目指す姿（案）で私どもがご提案した内容を①から⑯で表したものとなっているので、目指す姿をまず一読いただいたことで、それぞれの内容をイメージいただけないかと期待して行っている。

- ・25ページの意見交換会は、高校生とやま県議会に県立高校、私立高校、それぞれの代表者、これも高校2年生に参加いただいている。今ほどのアンケートも同じ時期に並行して行っていた。各学校でどのような取りまとめ、どのような協議をするかは、代表となる生徒さんにお任せしたので、やり方はそれぞれだと思うが、同じ学年の生徒全員が目指す姿も見ながら、アンケートに取り組んでいただいている中での話し合いであったと思うので、前提の一定の情報を得た上で協議をいただいて参加いただけたものと思う。

(牧田委員)

- ・ どれぐらいアンコンシャス・バイアスを見ればいいのか。

(丸田県立高校改革推進課長)

- ・ 21ページの結果をどう考えていくかはこれからのこと。

(坪池委員)

- ・冒頭で発言したが、教育内容の充実を図っていくと、生徒募集がなかなか難しいという話をした。その意味がなかなか曖昧だったかもしれないが、例えば21ページ「②探究活動や教科横断的な学習が充実した学校」は、教員の方は非常に高いが、生徒は低い。この辺りのことが先ほどの話だ。

(大西委員)

- ・アンケートなどについての感想に近いものになるが、例えば20ページの「学校生活について」。高校2年生が充実感や満足感を得られているものを3つ。反対のものを3つ回答している。
- ・回答数が多いものは、生徒が興味を持っている。回答数が少ないものは、どうでもいいと思っていることなのではないか。となると、回答数が少ないのは、進路指導、先生との関係、校風、地域との関わりということになる。今の学校は、高校2年生が感じている中では、充実感や満足感を得られている3つと比較すると、こういうところがどうでもいいこと、あまり興味関心がないこととなっているように感じた。
- ・例えば校則、進路指導、先生との関係は、今すぐでも改善、改良や工夫はできる、取りかかることであって、前段の今すぐに取りかかれる、学科・コースの見直しはこれとは次元が別のことかもしれないが、1つ1つの改革から今の高校生たちが充実した楽しいと感じる、アンケート中の目指すべき姿への回答にある、こどもたちの本当に素直な言葉、充実した最高の学校生活だったと思えるような学校づくりに変えていく取り組みはできていくのではないか。
- ・高校の中だけで完結するようなことではなく、例えば大学受験も、地域との関わりも、インターンもそうなのだが、外と関わっていく学校のカリキュラムの中には、どんどん外部の人材を今の段階から活用していく、知見をどんどん取り入れていくのが良いのではないか。

(南里経営管理部長)

- ・ここまで議論を踏まえて新田知事よりご発言いただきたい。

(新田知事)

- ・今日は、目指す姿に向けてどう進めていくか、そのようなたたき台を示した上でご議論いただいた。終盤には、アンケート結果などもご覧いただき、これを今後どう参考にしていくかにもご意見をいただいた。
- ・アンケートはデータしか出でていないのでご覧の通りだが、意見交換会はライブだった。私も教育長も立ち会っていた。まずシチュエーションとして、この意見交換の前に、彼ら彼女らは高校生とやま県議会というものを数時間やっていた。かつその日だけではなくて、夏からこれまで3回にわたりこういうことを勉強してきて、その集大成としてその日議会をやった。学校生活、部活いろいろある中で、あえてこういったことに取り組んできてくれたこどもたちに、私は敬意を表したいと思っていた。その意見交換会で出た意見は、驚くほど、彼ら彼女は本当によく考えてくれていると思った。
- ・牧田委員にご心配もいただいているようなアンコンシャス・バイアスは、あまりかかっていないように思う。意見を聞いてきたというのも全く自主的に、自分1人の意見ではあれだろうから、他の人達の意見も聞いたというのもあるし、また生徒会として意見を聴取してきたという学校もあった。それぞれが考えて工夫し、発表してくれた。
- ・はつきり言って、今、聞いたことについては、彼らには関係ないこと。関係ないというか、彼らの時代には、いずれも実現しないことについて意見を聞いている。そういう意味では酷なことかもしれないが、とても真剣に後輩たちのことを考えてやってくれたことは、そこにいたものとしては申し添えておきたい。例えば、中高一貫校についても、6年の途中で挫折する子もいるだろうから、そういうことも考えてやってくれなど、本當によく考えてくれていた。
- ・今日の会議では、新時代とやまハイスクール構想、まだまだ仮称だが、これを進めていこうということは確認できた。配置の姿は、これまで4学区でやってきたが、より広い範囲で学科改編が可能となるように、配置は東西2つのエリアで今後検討させていただきたいという方針を示させていただいた。
- ・目指す姿の実現に向けては、令和20年度までを3つに区切って、順次、新時代ハイスクールをふやしながら開設していくということ。そして、大規模校の設置方針、或いは第1期校の開設方針など具体的な検討のために、令和7年度に新たな検討組織を設置することも確認をいただいた。
- ・学科・コースの改編などについては、現在学ぶこどもたちのために、直ちに学科コースの見直しを行う必要がある場合には、第1期校の開校を待たずに教育委員会で検討を進めて欲しい。例えば、工業高校のことなどは先ほど例も挙げた。
- ・様々なタイプの学校・学科の開設に関しまして、中高一貫校については第2期での開設を目指して検討を進めていきたい。

- ・国際バカロレア認定校については、第1期の段階でグローバル教育に重点を置く学校を開設してはどうか。それをもとに、導入の必要性の議論をさらに重ねていくことではどうかということを提案させていただく。
- ・また、施設設備のハード面だけでなく、民間人材の活用や、教員のウェルビーイング向上など、ソフト面においても活力ある学校、組織づくりを進めていくことも提案をさせていただいた。
- ・基本方針については今日いただいたご意見を踏まえ、さらに整理をして、これから開催するワークショップ、或いは意見交換会でさらに意見をいただく予定にしている。
- ・今日議論がそこまでいってないこともあるが、もし、ここは再考が必要だということがあればご指摘いただければと思うが、いかがか。
- ・よろしければ、こういう方向性で今後さらに意見を聞き、またこの場での議論を進めていくことをご了解いただいたということでお願いしたい。

(南里経営管理部長)

- ・以上で本日の議事を終了する。

この後、事務局より、閉会の挨拶を行った。次回の第6回総合教育会議は、3月の開催を予定している。

以上